

エントリー学校名：佐賀県佐賀市立城西中学校

活動名：誰一人取り残さない学校に ～周りの皆を幸せにする力を磨く～

解決すべき課題：

社会が激変し、コロナ禍も相まって、これまで以上に見通しがつきにくい将来を、意欲をもって明るく切り拓いていける力を身につけた生徒の育成は急務である。また、SNS 等により、地方においても容易に世界とつながることができるため、地域が生活の基盤となり、地域コミュニティにおける人間関係が、生活を充実させる要素となったとも考えられる。本校は佐賀大学教育学部代用附属校としての使命を果たすために、毎年、自主研究公開を行っている。上記の背景を踏まえると、研究のための研究ではなく、直接生徒に還元できる教育実践を展開していく必要がある。

目標・方針：

学校教育目標の三観（図1）の具現化を目指し、学校教育のメインである教科等の授業をはじめ、学習面でも生活面でも、生徒同士の関わりに着目した活動を、既存の教育活動に融合させることで、誰一人取り残さない学校づくりにつながると考えた。そのために①「主体的な学び手」育成、②「思いやりの心」育成、③「明るい未来への希望」育成 の3つを柱として実践する。（図1）

活動内容：

①「主体的な学び手」育成

- 『学び合い』の考え方に基づく授業で「誰一人見捨てない」、「みんなができる」を日常に！（写真1）
- 生徒会からの『学び合いリーダー』の提案で授業を一緒につくる！（図2）

②「思いやりの心」育成

- 開発的生徒指導の考え方で、行事を再構成し、自己肯定感 UP！（写真2）
- 系統的・連続的なキャリア教育で、学校教育目標と三観の周知（写真3）

③「明るい未来への希望」育成

- 職場体験×SDG s で「誰一人取り残さない」を自分事に！（図3）
- 学校での学びを社会に開く（図7）

活動の成果：

1 学校教育目標と三観（学校観）の浸透

- 総合的な学習の時間と学活の時間を活用して取組んだ「マナー検定」で学校教育目標と学校観を言える生徒 100%（写真3）
- 学校の良さを PR するワークショップ（総合の時間）で三観に基づいたキーワードの出現（写真4）

2 生徒から授業をよりよくなりたいという提案

- 『学び合い』の考え方に基づく授業に関する全校アンケートの実施で教師と生徒が良さを共有（図2）
- 『学び合い』をよりよくなるための『学び合いリーダー』という取組みを生徒から提案（図4）

3 保護者・地域から学校の学びに反響

- 学習内容についてのアドバイスを保護者に求めて、学びを教室から家庭へ（図5）
- 授業で作成した作文や意見文を各種コンクールや新聞社に投書し、学びを教室から社会へ（図6）

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- 学校教育目標と全ての教育活動がリンクした実践である。
- 在学中だけでなく、10～20年先の生徒の幸せを考えた実践で、SDG s の考え方ともリンクしている。
- 既存の教育活動（不易）を再構成するだけで、全国どの学校でも実践できる。
- 「個」にスポットをあてるのではなく、「集団」の力を高め、自治力につながる実践である。

写真1 『学び合い』の授業



ここどういう意味？ちょっと教えて！

図2 生徒会提案の授業アンケート

1. 『学び合い』は好きですか？  
好き・どちらかといえば好き・どちらかといえば嫌い・嫌い  
理由

2. 『学び合い』のやりかたがわかりますか？  
わかる・どちらかといえばわかる・どちらかといえばわからない・わからない  
理由

3. 『学び合い』を続けたいですか？  
続けたい・どちらかといえば続けたい・どちらかといえば続けない・続けない  
理由

4. 早く授業が終わったときどうしたらより多くの『学び合い』はよくなりますか？  
理由

5. 授業が終わらないときどうしたらより多くの『学び合い』はよくなりますか？  
理由

図4 『学び合いリーダー』

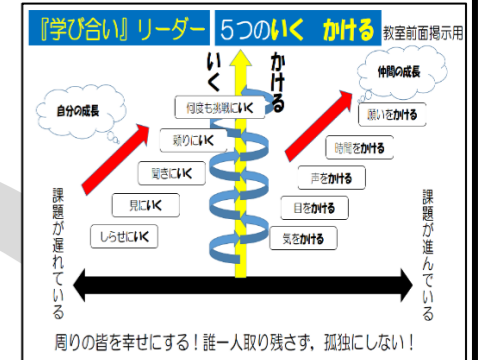


写真2 行事の企画・運営を生徒が！ 図1 学校経営のグランドデザイン



図3 職場体験とSDG s の関連



写真3 キャリア教育でマナー検定



- 校長・教頭が面接官で
- ①学校教育目標は？
  - ②学校とは何をする場所か？
  - ③そのために頑張っていること？

写真4 学校 PR ワークショップ

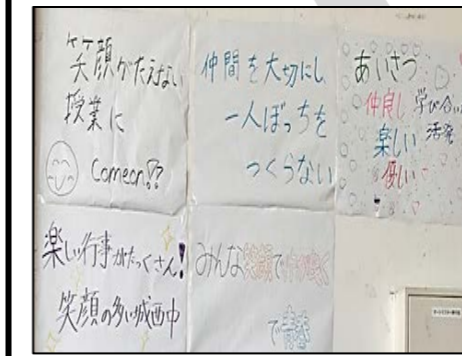


図5 保護者からのアドバイス

【ラウンジパートナー（保護者・身近な大人）の意見・質問】  
 O生徒との関係【母】  
 世界に仕事をするためには英語を話せる必要がある。税金が安い国で仕事をする。日本企業の利益が上がり、現地の人の仕事を増やす。どの国にもいいところがある。

【ラウンジパートナー（保護者・身近な大人）の意見・質問】  
 O生徒との関係【母】  
 世界に仕事をするためには英語を話せる必要がある。税金が安い国で仕事をする。日本企業の利益が上がり、現地の人の仕事を増やす。どの国にもいいところがある。

図6 新聞への投書で掲載

